

さいたま市 退職校長会会報

発行責任者
高取 廣美

会長就任にあたって

さいたま市退職校長会

会長 高取 廣美

本年度の役員改選にあたり、会則内規により、浦和班からの会長選出を受け、総会において承認され、本会の会長を仰せつかることになりました。

重責ではありますが、歴代の会長および諸先輩の方々が積み上げて来られた、伝統の継承と発展に努めてまいります。

併せまして、日々、厳しさを増す社会情勢下で山積する課題に事務局スタッフと協働共励しながら、柔軟且つ果敢に取り組んでいく所存でございます。

本会の目的は、「会員の親睦と

福利厚生を図るとともに教育の振興と地域の発展に寄与する。」

としていきます。教育の振興につ

いては、桑原前会長から引き継いだ課題の一つ、さいたま市教

委が進める「SOLaるーむ」への支援があります。文科省が掲げ

る「COOLプラン」（誰一人取り残されない学びの保障に向け

た不登校対策について）を基に【教室に入れない児童生徒が安

心して落ち着ける居場所を在籍学校に確保し、自分に合ったペ

ースで学習・生活できる校内教育支援センター】のことです。

これにつきましては、市教委担当部署と連絡を取り、下半期

より進めていく予定です。

さて、退職校長会は、かつて

教育現場で使命感と充実感を共有し、管理職としての辛苦を共にした同志の集団です。教職を

退いた後の人生を、共に楽しみ、現職時代の話題や近況報告に花を咲かせることは健康寿命

の源です。また、経験を活かし、教育現場や地域に貢献すること

は、自身の生き甲斐に通じます。終わりに、当会は浦和、大宮、

与野、岩槻の四つの班で構成されており、発足以来二十三年目を迎えます。各班には半世紀に

およぶ歴史と文化があり、それらの交流も年々盛んになっていきます。「交流だより」をご参照の

上、是非、ご参加ください。今後とも会員の皆様のご支援

とご協力の程をお願い申し上げます。就任のあいさついたします。



— 高取 廣美 会長 —

目次

◇巻頭言

さいたま市退職校長会

会長 高取 廣美

1

◇さいたま市立小学校校長会

会長からのメッセージ

2

さいたま市立小学校校長会
会長 永山 誉様（高砂小）

◇さいたま市中学校校長会

会長からのメッセージ

3

さいたま市中学校校長会
会長 玉崎 芳行様（常盤中）

◇令和七年度さいたま市

退職校長会定期総会 概要

4

◇教育情報

「令和七年度教育行政方針」の概要
さいたま市教育委員会

5

◇談話室 ～私の一言～

武井 悟・増田 藤雄
加藤 美幸・小島 健司
入江 知彦・木村富美代
中村 秀男・遅塚恵美子

6

7

8

9

◇心覚え

10

題字…高取 廣美

さいたま市立小学校 校長会会長からの メッセージ

メッセージ

心理的安全性と 組織づくり



さいたま市立小学校校長会

会長 永山 誉

(高砂小学校)

私の学校経営では、組織づくりを中心に据えています。組織づくりは人材の育成にも関連し、よい組織がなければ、カリキュラムマネジメントも教育活動の充実も図れないと考えるからです。では、よい組織づくりを進めるために必要なことは何でしょうか。まずは、心理的安全性

があり、心の余裕が生まれる職場を築くことが大切であると考えています。

学校に関するある調査委員会では、心理的安全性を高める取組は、教職員のチーム意識を醸成し、各自が主体的に協働し、さらには柔軟な発想をもとに問題解決を図るなど、総合力を発揮した問題解決に繋がります。と指摘しています。さらには、この心理的安全性を高める取組を行っていく上で、管理職のリーダーシップが欠かせないとも指摘しています。では、心理的安全性を高めるために必要な管理職としてのリーダーシップは何か、次の点も指摘しています。(一)気さくで話しやすい姿勢で接する。(二)教職員からの困りごと相談には、親身に対応する。(三)複眼思考で物事を捉える。すなわち、管理職として大所高所からの俯瞰的捉え方と同時に、教職員と同じ目線で問題を捉える。(四)「物事にはうまく行かないことや、不都合があることは当然

り前のことである。それがあからこそ、人間は成長できる。」といった認識を、折に触れて教職員に伝えていく。(五)自ら謙虚であること。分からないことや、はっきりさせられないことに対して素直に認める。自分の過ちや欠点に気づいたときには、それを認め、教職員に意見を求める。(六)正しいやり方から少しズレが生じたり、何らかの対応の際に若干の不都合が生じたりした段階で、教職員から報告があった場合には、それを「よく気づいてくれた」という態度で、受け止め、歓迎する。

企業経営にせよ、学校経営にせよ、実績を残してきた人の経営に共通するのはいかに人を育てているかと考えています。組織づくりが経営の大半を占めるといっても過言ではないでしょう。時代の波をよく捉え、その上で適材を適所に配置し、人を生かし、育てていく。それでもうまくいかないことは沢山ありますが、その時はいかに臨

機応変に動けるかが鍵となり、そこで必要なのが、教職員の心理的安全性と考えます。

学校現場では、日々教育施策の実現のため工夫ある学校経営を行うとともに、日々様々な課題に対応しています。校長は孤独であると言われますが、我々校長が、自信をもって学校経営を行っていくためにも、校長自身の心理的安全性も必要でしょう。そこで力を発揮するのが、校長会としての組織であると考えます。諸先輩方がこれまで大切にしてきた「学び実践する校長会」という理念の下、必要な情報交換を行いながら、校長自身も学び成長し、自信をもって学校経営にあたっていくことに寄与できるような校長会としてと考えています。

結びに、さいたま市退職校長会の皆様には、校長としての在り方や学校経営につきまして、今後とも御指導を賜りますようお願い申し上げます。

さいたま市中学 校長会会長からの メッセージ

メッセージ

「脚下照顧」

新たな時代への歩み
～着眼大局、着手小局～



さいたま市中学校長会

会長 玉崎 芳行

(常盤中学校)

現在の我が国の教育の潮流として、第四期教育振興基本計画が一昨年閣議決定されたことを経て、昨年十二月二十五日に中央教育審議会への学習指導要領に関する諮問がなされました。特に、第四期教育振興基本計画では、「持続可能な社会の創り手の育成」日本社会に根差したウ

エルビーイングの向上」という二つのコンセプトが柱として示されておりあります。

さいたま市では、竹居秀子教育長が、令和七年教育委員会年頭訓示や令和七年度教育行政方針において、『Well-being（幸せ）を保障する教育』の実現を目指して「エージェンシー」を発揮し、幸福な人生と豊かな社会を自ら創り出していくために」と、さいたま市学校教育が邁進すべき未来を高らかに掲げられました。

学制頒布以来、百五十年の星霜の中で、我らの先達は、公教育の責務を不易と流行の視座を踏まえ、未来ある子どもたちへのより良いはぐくみとして奉職されてこられました。それは、敬愛する諸先輩方がさいたま市中学校長会（以下本会）において子どもたちのために御尽力なされた姿でもあります。

今般、未来ある子どもたちを取り巻く世界は、日々刻々と変化、変容を続けております。本

会では、本市の子どもたちが社会で生き抜く二〇四〇年代を複眼的に捉え、新たな時代に対応しうる学校教育の在り方をリストラクチャリングしていかねければなりません。そのためには、本会会員各々が、自らの学校経営を俯瞰し、自校の教育活動全般に係る客観的分析・検証、そして、それらを踏まえた中長期的戦略を礎とした経営手腕がより一層求められるのではないのでしょうか。

例えば、学校経営者として、自校は何かできていて何が足りないのか。自校の子どもたちの Well-being を叶える学びとは何か、自校にしかできない学び、強みとは何なのか。例えば、自校の人材育成は、それぞれのチームスタッフのキャリアアステージやバックボーンに配慮した働きかけが為されているのか。など、校長としてのマネジメントを常に振り返り、日々の具体の蓄積が肝要です。

今日の公教育の果たすべき

役割を常に意識し、着実に具体で動き、具現を為すことが、悠遠の時に生きる（大人となる）子どもたちへのより良いはぐくみに資することとなりましょう。決して難解なことではないはずです。なぜなら、学校では、校長は「独り」ですが、本会では、独りではなく「同志」がいます。会員相互が連帯・連携を深め、会員の誰もが校長としての矜持と絆を醸成し合うことで、さいたま市の目指す人間像である「世界と向き合い、未来の創り手として輝き続ける人」の具現の一助となると信じております。私たちは、『子どもたちと教職員の絶対の守護者』で在り続けま

す。

今後とも、高取廣美会長様をはじめ、退職校長会の皆様方には、本会及び現職校長の「心の羅針盤」として、倍旧の御指南、御示唆を賜りたく衷心よりお願い申し上げます。

令和七年度 さいたま市退職校長会 定期総会 概要

令和七年度さいたま市退職校長会定期総会が、五月十六日(金)

ブリランテ武蔵野四階において開催された。ご来賓には、さい

たま市教育委員会学校教育部

長・野津吉宏様、埼玉県退職校

長会会長・新井俊一様、さいた

ま市立小学校校長会会長・永山

誉様、さいたま市立中学校長会

会長・玉崎芳行様をお迎えした。

一 開会行事

秋元千代子副会長の司会進行で、新井広副会長が開会のことばを述べた。

昨年度ご逝去された十三名の会員のご冥福を祈り黙祷する。

桑原裕通会長のあいさつでは次の話があった。

役員改選の年を迎え、新しい布陣でより魅力ある退職校長会にするため、昨年度試行の二点、年二回の交流だよりの発行と会員名簿の作成を事業として計画・予算化し、さらに各班の相互交流の輪を広げたい。

続いて、桑原会長より八名の新会員の紹介があった。

次に、ご臨席いただいたご来賓から祝辞をいただく。さいたま市教育委員会学校教育部長・野津吉宏様からは教育長祝辞の代読として、「昨年度の子どもたちの活躍や学力の様子、また、日本一の教育都市を目指す取組



①さいたま市スマートスクールプロジェクト、②不登校児童生徒への支援の充実と学びの多様な学校の設置、③子どもたちのエージェンシーを育むコミュニティ・スクールの推進」、埼玉県退職校長会会長・新井俊一様からは、「三つのM(人・マネジメント・予算)」に加えて一つのM(魅力ある会)としての活動に期待している」、さいたま市立小学校校長会長・永山誉様からは、「Well-beingの実現のため、誰一人取り残されない教育を目指して、量から質への学びの転換や働き方改革等に、校長会として小中が連携して取り組んでいく」との話があった。

二 議事

与野班の新井春雄会員が議長に選出され、「令和六年度事業報告並びに決算報告」が承認された。次に、令和七年度新役員が

承認され、ここで議事を中断し高取廣美新会長からあいさつとして、「課題となっている新会員勧誘の件やSolarるーむへの教育支援の件は、今後組織的に検討していく」との話があった。その後新会長から理事・幹事が選任され、桑原裕通元会長から退任のあいさつがあった。

議事が再開され、「令和七年度事業計画並びに予算案」について、拍手をもって承認された。

三 閉会行事

佐藤薫副会長が閉会のことばを述べ、定期総会が無事終了した。会員の総会参加者数は、四十名であった。

四 懇親会

総会終了後、一階のレストランで懇親会が開催され、来賓の方々を交えて有意義に懇親を深めることができた。

(文責 遅塚 恵美子)

教育情報 さいたま市の教育 ～「令和7年度教育行政方針」の概要～

「Well-being(幸せ)を保障する教育」の実現を目指して
～エージェンシーを発揮し、幸福な人生と豊かな社会を自ら作り出していくために～

【令和7年度のさいたま市教育の進むべき3つの方向性】

I. 「さいたま市スマートスクールプロジェクト(SSSP)」の加速度的な推進による、生涯学習社会を生き抜く「自立した学習者」の育成

AI や情報技術の急激な進展により、生涯にわたり学び続け、社会の変化に応じて柔軟にキャリアチェンジしながら人生100年時代を生き抜く時代の到来が予測される中で、子どもたちが将来への展望を持ち「自立した学習者」となるよう、SSSP を学校教育の中核に位置付け、クラウドとデータの利活用を要とした「学び方」「教え方」「働き方」それぞれの改革を加速度的に推進していきます。子どもたちが「自立した学習者」となるためには、クラウド上の自らの学びの履歴を活用し、自分に合った教材や学習方法、学習時間を判断し、自ら学習計画を立て、自己調整しながら学びを深める取組と、教師の伴走支援が不可欠です。そのために、学校と行政が一体となり、ICT を活用した「働き方改革」を一層推進し、それによって生まれた時間を、子どもに還元される教師自身の学びの充実と子どもと向き合う時間に費やすことができるような職場環境づくりを目指します。

II. 教育 DX を踏まえた多様な学びの場の創出と誰一人取り残さない教育の実現

学校教育は、コロナ禍以降、「安全・安心な居場所・セーフティネットとしての身体的・精神的な健康の保障」という役割が明確になり、福祉や支援など外部関係機関との連携・協働がより重要性を増しました。また、毎年増加傾向にある不登校児童生徒をはじめとして、実質的に学校以外の学びの場が唯一の学びの場となっている子どもたちの存在を受け止める必要があります。そこで、本市では、県内初となる「学びの多様化学校」を令和8年4月に開校し、更なる学びの選択肢を増やしていきます。加えて、外国籍であることや病気、障害等により学びに不安や課題を抱える子どもたちなど、全ての子どもがそれぞれの特性や意向等に応じて活躍できる機会を、デジタルの力をフル活用しながら意図的に創出していきます。

III. 学校に携わる全ての人のエージェンシーをはぐくむコミュニティ・スクールの進化・深化・真価

子どもたちは、学校という社会の中で、生まれ育った環境や障害の有無、国籍や文化的背景に関わらず、様々な仲間とつながりながら学びを深化させていきます。そして、その学びを生かして主体的に行動し、認められることを通して、自信や達成感、成就感などの実感を伴い、社会的に自立・自律していきます。そこで、学校では、学校運営協議会やオンライン環境を活用して、学校外の教育資源と社会の変化を教室に積極的に取り込み、活用することがますます重要となります。また、コミュニティ・スクールにおいて、多くの大人達が協働して課題解決を図りながら、自分たちの意見等を具現化していく姿こそが、子どもたちにとっての生きた教材となり、「Well-being(幸せ)を保障する教育」そのものとなり、「エージェンシー」を発揮して自分の幸福な人生と豊かな社会を創り出していく姿につながるものと確信しています。



— 私の一言 —

至福のひと時を求めて

武井 悟

定年退職の記念に自転車を購入しました。ランドナーという学生時代に流行っていた古いタイプの旅行用自転車で、現在は街であまり見かけません。

暫く活動休止していましたが、新型コロナウイルス終息後に復活しました。山梨フルーツライド（サイクルイベント）、霞ヶ浦一周、鬼怒川温泉から塩原温泉までの日塩もみじライン、埼玉県内の峠道等々です。

今年の三月には二泊三日で伊豆半島を走りました。伊東から下田温泉、石廊崎、土肥温泉、沼津と半島をほぼ一周しました。海沿いといっても登り下りの連

続で、かなりきつかったです。

登りが続くと無理がききません。少し走っては一休み、走り始めても又すぐに一休み。そんなことを繰り返し、結局は自転車を押して歩いたりしています。そんな苦しい思いをしても走るのをやめないのは、登り切った時の達成感、充実感が何物にも代えがたいからです。自分の足でたどり着いて出会う絶景は格別です。下り坂で風を切って走る爽快感は経験した者にしか味わえません。

この至福のひと時を求めて、身体が続く限りこれからも走り続けていきたいものです。富士山一周、琵琶湖一周、中山道走破等々、夢はどんどん膨らんでいきます。

まずはこの八月末、山梨フルーツライドに再挑戦します。前回よりは余裕をもって走りたいので、週一回は早朝一時間ほど自転車ですわっています。週二、三回はジム（チョココ）に通って筋トレにも励んでいます。

「若くていいねえ！」

増田 藤雄

昨年夏、北海道を旅した時、宿泊したゲストハウスのオーナーさんに言われた言葉である。私たちは、上は七十一から下は六十五歳の四人グループだった。爺の自覚はあった。久しぶりにこんなことを言われ、何か勘違いされていると思う、宿帳を指さして年齢を言うと、さらにこの方は「六十代は花だよ。人生で一番いいときだ。」と返された。この方と話をしていくうちに「今が青春だ」と思えるようになってきた。

私たちは、ここ二・三年、「JR青春18きっぷ」を使い全国の城巡りに出かけている。若い頃、通勤途中で電車を見ると「これに飛び乗って遠くに行きたい」という衝動にかられることが何回もあった。コロナが明け、六十代も半ばに差し掛かった頃、その時の思いがふつふつと蘇っ

てきた。同じ思いを持つ昔の同僚や退職校長会の仲間が集まり、安宿を渡り歩いて全国を巡るようになった。各駅停車と安宿、食事は立ち食いやコンビニ、家内には「何が楽しいの？」と思われているようだが、これが本当に楽しい。正に青春だ。

このメンバーで旅するとき話題になるのが「いつまで続けられるかね？」である。一人欠け、二人欠け、十年経ったら自然消滅しているのではとみんな思っている。それもしようがないかなという感じである。だからこそ、今を精一杯楽しもうという気持ちである。

「今は青春」という思いで自分の残りの人生を考えたとき、退職校長会には人生の道筋を体現してくださっている先輩方が何人もいる。現役中は仕事上の目標とさせていただき、今は人生の道標とさせていただいている。願わくは、私も後輩たちからそう思われる人生を歩みたいと思う今日この頃である。

つながること、

つながること

加藤 美幸

退職して七年になりました。退職時もうでしたが、退職後も人とつながることで充実した生活を送っています。

教職生活の途中、三分の一ほどの期間連続で、社会教育行政に身を置くことになりました。一日の大半が「パソコン」に向かう生活に変わりました。また、対象、相手にするのが「子供」から「成人」になりました。内容も「起案」「決裁」「議会対応」「挨拶文」など、全くの初任者マークで、「やり直し」「もう一回」「もう一回」と言われ、苦労しました。その時代に生成AIがあつたら…。大変なことばかりの行政のようですが、ゴルフ、宴会、旅行など楽しいことも多くありました。

私が行政にいたときには、埼玉県で全国規模の大会を開催す

ることになり担当したり、終了後には新規事業の子ども大学を立ち上げたりしました。やりがいもあり、つながりも広がりました。

「頼まれたことはなるべく断らない。」このようにしてきたので、つながっている方々から声をかけていただけるのでしよう。今、大学や小学校で教員志望の大学生を指導・支援する仕事をいただき、久しぶりに児童とも関わっています。また、退職校長会だけではなくいくつもの団体の事務局や幹事などを引き受け、会を欠席することもあります。忙しくしています。

いずれの会・団体も、会員減少や事務局の担い手が見つからないなどの課題を抱えています。会をつなげていくことが未来への責任となつていますが、難しい課題です。

来年は大学の卒業後四十五周年の同窓会。コロナ前の退職時同窓会ぶりの出会いを楽しみにしています。

子どもたちと共に

小島 健司

不登校等児童生徒数は、この五年間で国・さいたま市ともほぼ倍増している。また、本市においては相談機関等における相談・指導等を受けていない人数が三倍強となっており、これらの対策は喫緊の課題となつている。

このような中、私は教育支援センター勤務三年目の今年から個別サポート指導員(So1aるーむ担当)としてあいぱれっと教育相談室に勤務している。

相談室内では静かに個別学習に取り組んでいる児童・生徒が多いが、運動の時間や様々な体験活動を通して時折見せる子どもらしい笑顔に心癒されている。

ただ、教育支援センターは市

内に六室しかないので遠方にて通室が難しい子どもたちも多いと推察される。

そこで、予算不足や担当者の配置など、課題は山積しているが、昨年度から導入された「校内教育支援センター(So1aるーむ)」の果たす役割は大きいと思われる。昨年も「相談室に通いながらSo1aるーむにも通えるようになった」との報告を受けることが少なからずあったので、今後もこの取り組みは充実発展させることが期待される。

今後は各学校の要請に応じてSo1aるーむの運営をお手伝いしていきたいと考えている。

「七十にして心の欲する所に従つて矩(のり)を踰(こ)えず」とあるのを教科書で教えたことがあつたが、これから子どもたちに寄り添って余生を過ごしていきたいと思う。

地域社会への奉仕

入江 知彦

私たちの住宅は、昭和四十年

頃、見沼田んぼに造成された戸建ての分譲地である。開発当初は、劣悪な住環境であったが、自治会が中心となって整備に奮闘し、今では市街化調整区域でありながら、公園や公共施設、交通の便なども充実し、住環境は目を見張るほど良くなった。尽力してくれた先人の苦勞を考えると、私も地域のために少しは力になりたいと思っていた。

退職してから時間に余裕ができたので、十数年前から自治会の役員を引き受け、今年で会長職も八年目に入った。自治会では、

◎安心して暮らせる町づくり

◎楽しいコミュニティづくり

などの目標を掲げ活動しているが、住民からの相談や各種行事の開催に当たっては丁寧な対応を心掛けている。

例えば、敬老の日は百四十人の対象者がいるが、贈り物は男女別にし、直筆で宛名を書いた封書に挨拶文を入れ、必ず手渡しで届けている。

一昨年のある時、会員の皆さんを何か喜ばせることはないかと考えた時、ふと浮かんだのが特別会計の活用である。これは三十年ほど前から自治会館の建設を目標に積み立ててきたものだが、五年前に建設を断念した後も通帳に眠ったままになっていた。防災用品ならどの家庭でも必要だろうと考え、全家庭に一万円程の希望する品を配ることにした。多額の支出なので、会議を重ね一年かけて自治会の了承を取り付け、配布が完了した時には、先輩方や会員からも大いに喜ばれた。

自治会長は普段の活動に加え、各種会合や行政・関係団体との業務で多忙を極めることもあるが、「世のため、人のため、自分のため」と思い、日々活動に取り組んでいる。

出逢いを

ありがとう

木村 富美代

今年の春、青春時代から親好を深めてきた友人が、突然の病で他界してしまった。

彼女は、これまで病気とは無縁で、ご夫婦での海外旅行も多く、私は羨ましく思っていた。ご主人の海外勤務を機に退職し、中東やアジアでの長い海外生活が一因だったかもしれない。

帰国後の彼女は、国立科学博物館のボランティアを続け、英語やフランス語にも挑戦しマスターしていたかなりの行動派。

二月、彼女から検査入院するという電話が入った。本人は当然の事だが、私の不安も膨らむばかり。暫くして、本人から告げられたのは、ステージ4の十二指腸ガン。非常に希少なガンで、一人に一人が罹るらしい。私は絶句してしまった。彼女の動揺を少しでも和らげる適切な

な言葉をかけてあげたいのにその言葉が見つからないのである。医師から告げられた結果は彼女に相当な苦痛と悲しみを与えたにちがいない。まして私に話をしなければならぬ彼女が一層不憫でならなかった。

入院から一ヶ月。彼女との最後の面会は、院内感染症の広がり で叶わなかった。

翌日、様態は急変し、家族に見取られながら七十三歳の人生に幕を閉じた。

数日後の家族葬には、見覚えのある数名の女性も参列していた。そこで、知人達と再びお逢いして故人を偲ぶことにした。故人とゆかりのある、国立科学博物館のある上野で。

そして三人は、今後も定期的に集まり、互いの近況報告や博物館巡りなど楽しむことになった。

この出会いは、いまは亡き友人が結んでくれたもの。末永く大切にしていきたい。

大好きな溪流釣り

中村 秀男

私は溪流釣りが大好きだ。溪流釣りは大自然の営みを存分に体感させてくれるからである。ググツ、目印が沈み、道糸がピンと伸び、竿先が弧を描いた。「よし、喰ったぞ。でかい！」この一瞬の手応えがたまらない。木々の枝に絡まぬよう慎重に引き寄せると、銀鱗を光らせて魚が飛び跳ね、我が手中へ。

「イワナだ。やったぞ！」

これが溪流釣りの醍醐味だ。私はイワナやヤマメを求めて利根川（群馬）、魚野川（新潟）、渡良瀬川（栃木）の上流部に出掛ける。馴染みの釣り場は利根川の支流で、みなかみ町藤原の民宿を常宿と決めている。ここのご主人はマタギ（熊撃ち）の吉野秀市さんで『ぐんまの達人』の一人だ。毎晩、ご主人が晩酌をしながら上機嫌で熊撃ちや溪流釣り、登山、山菜採りなどの

体験談を語ってくれる。これを聞きながら呑む酒は特にうまい。早朝、身支度を整えて向かった森で聞こえてくるのは沢の音だけ。ポイントを見つけ、生き餌を付けた仕掛けを流す。冷たい雪解け水が流れる沢は、日頃の雑念を忘れさせてくれる。

家族で溪流釣りに出掛けたときのことだ。突如、何十匹もの猿の大群が出現し、私の釣竿を飛び越えて行き、肝を冷やした。また、息子の前にカモシカが現れ、しばし睨めっこ。息子も大した度胸だと見直した。さらに、妻が釣りに夢中になっていると、目の前に子熊が出てきたそう。母熊が近くにいないか、慌てて逃げ帰って駐在さんにSOS。

このように溪流釣りは都会では想像もできない様々な体験を味わえる。だが今は熊が頻繁に出没するので残念ながら釣行を自粛している。なお、吉野秀市さんは故人となられたそう。

心のふるさと

遅塚 恵美子

平成三十年度に退職してから、早くも七年目となる。振り返れば、昭和五十八年度、越谷市の小学校に、新採用にも拘わらず一年生担任として着任。その後、旧岩槻市の小学校三校に教諭として日々忙しく子育てをしながら勤務し、市や県の教育行政職を経て、管理職としてさいたま市中央区、越谷市、南区、岩槻区の小学校に勤務させていただき、計三十六年間でなんとか無事に終えることができた。

長さは異なるが、それぞれの職場で、諸先輩方や保護者、地域の皆様に支えられ、子どもたちのよりよい成長を目指して教育活動を展開することができ、今も感謝の気持ちでいっぱいである。

小学校に長く勤務して思うことは、学級担任の重みである。管理職であってもその替わりは務まらない。子どもたちにとって、担任は学校での「親」である。管理職としても、学年・学級経営の重要性をいつも肌で感じていた。現在、学校地域連携コーディネーターとして中学校に勤務しているが、その思いは同じである。

それぞれの学校が特色を生かし、保護者・地域とともに、一人ひとりの子どもの成長を心から願って教育活動を行っている。教育課題が山積する中で、担任のサポート体制を組織的に推進していくことがとても大切であると思う。

どの子にとっても、自分の通う学校が「心のふるさと」になるように、私も、今の立場でできることに精一杯取り組みたい。

心 覚 え

令和7年度さいたま市退職校長会 役員名簿

顧問	西村 皓(浦和)	竹本 昭剛(大)	関口 靖彦(浦和)	加々美健一(大)	桑原 裕通(与)
会長	高取 廣美(浦和)				
副会長	星野 貞邦(浦和)	新井 広(与野)	佐藤 薫(大宮)	秋元千代子(岩槻)	
監事	橘 克彦(浦和)	菊地 豊(与野)	鶴沼 邦雄(大宮)	新井このみ(岩槻)	
理事	山崎 俊(浦和)	松下 道夫(浦和)	木村 栄二(浦和)	高橋 正(浦和)	
理事	脇田 茂雄(浦和)	岡 義行(浦和)	武井 悟(浦和)	増田 藤雄(浦和)	
理事	浅見 茂男(与野)	佐藤 博志(大宮)	渡邊 正道(大宮)	橋本 栄(大宮)	
理事	溝口 正巳(大宮)	中村 秀男(大宮)	渡邊 朋久(大宮)	新井 栄司(大宮)	
理事	西川 和利(大宮)	岡野 功(岩槻)	井上 修一(岩槻)		
事務局長	並木 昌和(浦和)				
幹事	大谷 慎也(浦和)	石川 信和(浦和)	笠原 実(浦和)	坂東 浩之(浦和)	
幹事	山岡 康幸(与野)	金子 強(与野)	星 美千也(大宮)	豊島 登(大宮)	
幹事	松田 泰成(大宮)	柴崎 邦夫(大宮)	駒宮 寿夫(大宮)	斎藤 栄一(岩槻)	
幹事	遅塚恵美子(岩槻)	染谷 隆(岩槻)			

令和7年度さいたま市退職校長会 会員数 [令和7年5月1日現在]

浦和班 148名	与野班 36名	大宮班 163名	岩槻班 46名	合計 393名
----------	---------	----------	---------	---------

さいたま市立小学校校長会 役員名簿

顧問	三島 公夫(三室小学校)		
会長	永山 誉(高砂小学校)		
副会長	大森恵美子(沼影小学校)	辻 美由紀(大宮小学校)	野津美智代(大宮南小学校)
副会長	小野 圭司(与野本町小学校)	河野 秀樹(美園小学校)	
監事	引間 陽子(指扇小学校)	玉川 徹(大宮東小学校)	
幹事長	西谷 健児(春野小学校)		
幹事	長谷場明博(仲町小学校)	宮本江津子(大門小学校)	竹谷 浩一(西浦和小学校)
幹事	中野 緑(浦和大里小学校)	緒方 健二(与野西北小学校)	
書記	目黒 良作(大久保東小学校)	安島 俊之(栄小学校)	
会計	山口 美保(田島小学校)	高橋 周一(中島小学校)	

さいたま市中学校長会 役員名簿

顧問	清水 一司(土合中学校)	小熊 誠(土屋中学校)	
会長	玉崎 芳行(常盤中学校)		
副会長	山浦 麻紀(岸中学校)	田中 一秀(本太中学校)	大河内範一(南浦和中学校)
副会長	長岡有実子(日進中学校)	鈴木 純(川通中学校)	
幹事長	小倉 弘一(白幡中学校)		
幹事	田中 一秀(本太中学校)	浅見 正史(大宮東中学校)	亀井 隆司(大宮南中学校)
幹事	廣江 剛(大宮北中学校)	森角由希子(桜木中学校)	田中 和浩(宮原中学校)
幹事	太田 鋭一(植水中学校)	永谷 和俊(春野中学校)	金子 宜史(岩槻中学校)
幹事	鈴木真由美(美園南中学校)		
監事	鈴木 和博(木崎中学校)	遠藤 敏恵(原山中学校)	

さいたま市立の学校 [令和7年5月1日現在] (児童生徒数・学級数は、特別支援学級含む)

学校種別	学校数	児童・生徒数	学級数	教職員数
小学校	104校	68,557人	2,535学級	3,448人
中学校	58校	31,401人	989学級	1,876人
中等教育学校	1校	934人	16学級	87人
高等学校	3校	2,892人	72学級	173人
特別支援学校	2校	111人	37学級	109人

編集後記

会報第42号をお届けいたします。令和7年度さいたま市退職校長会総会を開催することができました。本号はその報告を含め、いただいた玉稿を中心に編集いたしました。この場をお借りし、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。(広報部担当幹事 豊島 登)